

共生

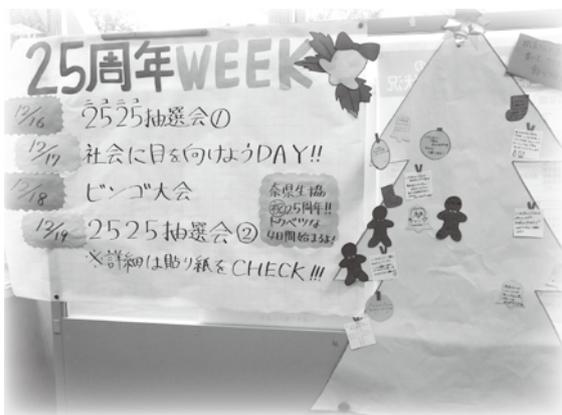
奈良県生協連

2020年1月

NO.115



ピースアクション in なら 2019



奈良県立大学生協25周年



もくじ

新年のごあいさつ森宏之奈良県生協連会長…	1
新年のごあいさつ荒井正吾奈良県知事……	2
ピースアクション in なら2019・平和ライブラリー	
……	3・4
第2回生協・行政協議会……	5

おじゃましました～奈良県立大学生協の巻～…	6
関西電力・大阪ガスとの懇談会……	7
第16回大阪地区消費者対話集会……	8
いきいき健康まつり・食品ロス削減フォーラム他…	9
3.11を忘れない……	10

新年のごあいさつ

奈良県生協連の創立30周年にあたる2020年、 国連の持続可能な開発目標(SDGs)での課題を捉え直し、 活動の深みと幅を広げる連携強化の年に

奈良県生協連会長 森 宏之



奈良県生協連の会員及び組合員のみならず、新年おめでとうございます。昨年は、奈良県生協連の様々な活動に対し、大きなご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

世界の協同組合の組合員数は10億人を超え、各地域の社会のニーズに応じて約300兆円もの事業を生み出しています。また協同組合は、地球環境の保全、貧困飢餓の撲滅、地域の雇用創出、社会的弱者への支援、再生可能エネルギーの普及、平和と安全・安心社会の実現など多様な社会問題に取り組んでいます。さて、国連の教育科学文化機関(ユネスコ)は、2016年に協同組合を無形文化遺産に登録、「協同組合モデルを社会矛盾の最善の解決策」と位置づけています。また、2030年に向け定めた国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」では、「あらゆる人々の活躍」「地域活性化」「循環型社会」などの課題を掲げて協同組合の役割に大きな期待を寄せています。

奈良県生協連は全国の中では遅い時期の創立とはなりましたが、今年で30年目を迎えます。現在の会員数は、地域生協3、大学生協4、労済生協1、医療福祉生協1、合計9つの生活協同組合で構成する連合会です。創立以来、事業規模や分野の違いを越えてお互いに交流、地道に県連活動をすすめてきました。地域生協は県民加入率が高いこと、大学生協は学園での組合員からの評価が高いこと、労済生協と医療福祉生協は近隣府県との緻密な連携のもとで職場と地域社会に定着し発展していることに特徴があり、地

域や学園や職場でその役割を果たしてきましたが、まさに国連の持続可能な開発目標(SDGs)にそった活動を蓄積してきたといえるかもしれません。また、県連設立直後に奈良県農業協同組合(JAならけん)様、奈良県森林組合連合会様との協同組合連絡協議会が組織され、以後は毎年の取り組みで協同組合間の連帯活動を積み上げてきました。2018年、新たに結成をみたJCA(日本協同組合連携機構)のもと、奈良県からもこの全国連帯活動に参加できることを大変、嬉しく感じております。これまで、奈良県生協連は、食とくらし、平和、環境とエネルギー、福祉、防災の5つの課題にかかわってきましたが、これらの課題を国連の持続可能な開発目標(SDGs)にそったものとして捉え直し、取り組みを広げる力にしていく必要があります。今年2020年、奈良県生協連創立30周年にあたりますが、交流を基礎にしつつも活動に深みをもたせ幅広い分野にかかわりをもっていくことが必要です。県行政並びに県下市町村のみならず、奈良県社会福祉協議会、奈良県地域婦人団体連絡協議会をはじめとした各分野の団体のみならずとのさらなる連携強化を模索しながら、これらの5つの分野の諸課題に真摯に取り組むたいと考えます。奈良県生協連に集う会員役職員、組合員のみならず、今年の干支は庚子(かのえね)です。協同組合原則に則って骨身惜しまず動き回り、活動と事業を前進させましょう。「地域共生コミュニティづくり」をすすめる年にし、今年も協同組合の活動を奈良県のすみずみに広げてまいりましょう。

新年のごあいさつ

奈良県生活協同組合連合会
 会員生協及び関係者の皆様に
 令和二年の初春のお慶びを申し上げます。

奈良県知事 荒井 正吾



新たな御代の始まり

昨年は、第126代目の天皇がご即位されました。

「即位礼正殿の儀」、「大嘗祭」、「大饗の儀」に続き、11月27日には、奈良県橿原市の神武天皇山陵で「親謁の儀」が行われました。

「大嘗祭」は、上古の天皇が豊饒への感謝と祈願のために行われた新嘗祭に由来するとされていますが、第40代天武天皇が奈良の飛鳥浄御原宮で即位の儀をなされた際に、皇位継承儀式として初めて行われました。その後、皇位継承に伴う一世に一度の重要な儀式として、一時期を除き綿々と今日まで行われています。

大嘗祭と大饗の儀で歌われる奈良の歌

「大嘗祭」と「大饗の儀」では、奈良にゆかりのある「国栖の古風」、「久米舞」、「大歌」が歌われました。

「大嘗祭」で奏された「国栖の古風」は、第15代応神天皇が奈良の吉野宮へ行幸になった折り、国栖の人々が大御酒を醸して献上したときに歌った故事に由来するものです。

また、「大饗の儀」で奏された「久米舞」は、古事記・日本書紀の神武天皇条にあり、神武天皇が大和の宇陀の兄狛を征討したときの御製とされています。

さらに、天武天皇が吉野宮に行幸され、日没に琴を弾じられたとき、山の端に神女が現れ、琴に合わせて舞ったとされる「大歌」も奏されました。

天皇のご即位に際し、奈良県ゆかりのものが多く披露されることは誠に誇らしいものです。

もっと良くなる奈良を目指して

折しも今年には日本書紀成立1300年であり、藤原不比等没後1300年の記念すべき年にあたります。奈良県では、2012年より推進してきた「記紀・万葉プロジェクト」の集大成年として、東京国立博物館での特別展「出雲と大和」など様々な事業を展開し、日本のはじまりの地である奈良の魅力国内外に発信いたします。

さらに、「もっと良くなる奈良」を目指して、4月に開業する県コンベンションセンターの積極活用、新たな森林環境管理制度の構築、出所者・外国人労働者などの就労支援、様々な医療ニーズに対応できる地域医療体制の構築、大規模広域防災拠点の整備、奈良県中央卸売市場の再整備などに取り組んでまいります。

年頭にあたり、貴連合会並びに会員生協の皆様のみますのご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

ピースアクション in なら2019

「核兵器をめぐる世界の動きと 私たちにできること」を開催しました



11月30日(土)奈良県商工会議所において、「ピースアクション in なら2019」が、ピースアクションをすすめる会(奈良県生協連とならコープ平和の会)が主催して開催され75人が参加しました。核兵器禁止条約が国連で採択されてから2年、2020年には核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議が開催されるにあたり、世界の情勢、核兵器の非人道性と核抑止論などについて、正しく理解し、私たち市民ができることは何かを考える機会としました。

基調講演では、長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授の中村桂子氏が、「核兵器



中村桂子准教授

をめぐる世界の動きと私たちにできること」をテーマに講演しました。

中村桂子氏は、①核兵器をめぐる現状について ②「核兵器のない世界」に近づくために、世界の国々や人々にはどのような努力をしているのか? ③私たちの課題は何だろうか? について丁寧な報告されました。

先生は、最後に「希望を持つためには、事実を知ること、そして核兵器の一発が、自分たちと同じように暮し、生活している人々に対して、何をもたらすかを考える想像力を持つこと、そして、『私たちが世界を変える主役であり、主体である』と認識すること。今、世界は本当に動いている」と強調されました。

その後のリレートークでは、①奈良北高校放送局製作DVD上映とコメント(顧問の植田久美代先生)②「Peace Now! 奈良2019」(奈良女子大 國本理紗子さん)について報告していただきました。また、NPT再検討会議生協代表派遣者として奈良県生協連代表 宮本志音さんとならコープ代表 カーン陽子さんが紹介され、それぞれNPTに向けての想いを話していただきました。



奈良北高校 植田 久美代先生 奈良女子大 國本 理紗子さん NPT再検討会議代表派遣 カーン陽子さん 宮本 志音さん

リレートークをうけて最後に、中村桂子准教授から以下のコメントを頂きました

NPT再検討会議は、ゴールではない。失敗する可能性もある。合意文書を作るには、全会一致が必要。2020年はNPT条約発効から50年の大きな節目の会議。どのような結果になろうと、『その先を見越して、帰ってから何をやろうか』ということを考えるための参加と捉えて、結果はどうあれ『何があっても私達は繋げていく』ことを胆に命じて一緒にやってみましょう。

参加者からは次のような感想が寄せられました。

『理論と想像・感性』両方を持ち合わせる事が大切!という事を学ばせていただいた(50代)

興味・関心はあるがきっかけがない若者が多くいる、ということがわかり、もっと多くの方にきっかけができるように、活動していこうと思った(20代)

何事に対しても、事実を知り、想像力を働かせることが大事だと確信した。小さい頃からの教育も大切と思う(70代)

『核は抑止力にならない』という言葉がとても印象に残った。また同じ学生でも、平和について真剣に考える人がいて、自分も何か取り組んでみようと思った(20代)

とても明確で、最後に『想像力』と言われたことが印象的でした。何かできる!ということと、何かしなければだめだ!との思いが溢れる講演でした

奈良北高校の取り組みは、素材ですが高校生の思いが伝わってきた。被爆者の方へのやさしい気持ちが出来た。すばらしい取り組みだと思う(70代)

ピースの取り組みが新しい切り口の平和の取り組みとなっていて感動した。大学生のピースなら報告、大きな希望の光に感じた(60代)

「とてもわかりやすかった」「心に残る内容だった」「自分事として捉え、行動したい」「世界は変えられる、希望を持って活動していきたい」「自分にできることって何かあるだろうと思いをめぐらせる良い機会になった」などの感想が多くありました。

「核兵器廃絶に向けて被爆体験を学び、次世代につなげよう」をテーマに ならこーぷ「平和ライブラリー」開設記念 講演会が開催されました



講演会の様子



入谷方直さん(左) 濱住治郎さん(右)

県内の個人や団体の被爆・戦争体験を掘り起こし、記録し、その体験を将来に継承するための活動の拠点とすることを目的し、10月6日(日)に「こーぷふれあいセンター六条」2階に「平和ライブラリー」が開設されました。開設記念講演会(ならこーぷ・奈良県生協連共催)が開催され、「核兵器廃絶へ向けて被爆体験を学び、次世代へつなげよう」をテーマに55人が参加し、学び交流しました。

記念講演会では、日本原水爆被害者団体協議会事務局次長 濱住治郎(はますみじろう)氏による「胎内被爆者としての被爆体験、核兵器を巡る情勢、被爆者運動のこれまでとこれから」についてお話しいただきました。

1945年8月6日濱住さんは、お母さんのお腹にいた時に被爆し、そして原爆にお父さんを奪われました。濱住さんは、次のように胎内被爆者としての想いを語られました。父の写真を見ながら育った。父が亡くなった49歳の時、突然家族を残して亡くなった父の無念さを思い父の分まで生きたいと実感し、そして自分が被爆者ということも意識するようになった。胎内被爆者は、『生まれた時から被爆者としての烙印を押されている』『一番若い被爆者』です。被爆

者の活動は、『人間としての尊厳』『人間としての回復』を求めるたたかいです。子どもたちや孫たちに核兵器も戦争もない世界を残すために、被爆者運動の継承が重要になっている。きのこ雲を取り去った『青い空』を世界の子どもたちに届けたい。それが被爆者の使命であり、全世界の大人一人一人の使命だと思ふ、と強調され、この平和ライブラリーが継承活動の拠点となるのが全国から見ても光を与えてくれると期待を述べられました。

次に、2006年に解散した「わかくさの会(奈良県原

爆被害者の会)」や県内の被爆者の活動の記録や証言を掘り起こし原爆体験を次世代に継承する活動を行っている入谷方直(いりたにまさなお)さんから「被爆者が残したものの価値を知る」のテーマで活動報告がありました。「継承活動は被爆者だけにまかせきりではなく、私たちが価値を知り、受け継いで伝えていかなければならない。平和ライブラリーが平和を語るサロンになってくれればと願う」と話されました。その後、2020年に開催されるNPT再検討会議への代表派遣者(ならこーぷ代表・カーン陽子さんと奈良県生協連代表・奈良県立大学3回生宮本志音さん)が紹介され、NPTに向けての想いを語っていただきました。



展示物を見る参加者

NPT再検討会議への思いを話す
代表派遣のお二人

奈良県に住む被爆者の活動のあゆみ

2019年度 第2回「生協・行政協議会」を開催しました

11月7日、奈良商工会議所において2019年度第2回生協・行政協議会を開催しました。

奈良県消費・生活安全課から田中利亨課長はじめ4名出席され、奈良県生協連役員との懇談会を行ないました。奈良県生協連は、10月に「2020年度奈良県行政に向けてのへの要望書」を提出しましたが、その要望項目に対する担当各課からの回答について丁寧に説明していただきました。

その後、食の安全、消費者行政、安心してらせる地域づくり、環境・エネルギーや、この間の生協と連携したお知らせ(夕食宅配での広報等)、SDGsの認知度向上と事業者への啓発、ゲノム編集食品の対応、消費者教育などについて意見交換しました。

● 奈良県生協連「2020年度奈良県行政に向けての要望書」のポイント ●

1. 食の安全安心の施策についての要望

- (1) 「なら食の安全・安心確保の推進基本計画」に基づく行動計画実施のための予算措置と人的体制の要望
- (2) 食品表示の監視指導について県政関連部局間の連携を強めた監視指導
- (3) 「奈良県HACCP自主衛生管理認証制度 通称：ならハサップ」の食品事業だけでなく観光産業に関わる食品関係事業者等へ認証取得の拡大によるブランドの向上。また、消費者や食品等関連事業者が正確な知識を持てるようにリスクコミュニケーションの充実
- (4) 食品ロス削減の取り組み
消費者と事業者双方がそれぞれの形で参加でき、官民が一体となり、県民の食品ロス削減に向けた意識啓発

2. 消費者行政の推進についての要望

- (1) 消費者トラブル防止に向け、消費者の利益擁護支援事業を担う団体への可能な限りのトラブルの傾向の情報提供
- (2) 消費者の利益擁護支援事業を担う団体に対する県政からの継続的支援

3. 安心してらせる地域づくりの施策についての要望

- (1) 「子どもの貧困対策法」の市町村への支援と対応
「奈良県社会的養育推進計画」の策定などによる子ども食堂への補助、社会的擁護が必要な子どもへの支援強化
- (2) 「奈良県地域福祉計画」の積極的推進
- (3) 「奈良県保健医療計画」の積極的推進と健康寿命を進めるための支援強化
- (4) 日常の防災対策や災害発生時の連携協力関係のための定期懇談会の実施
- (5) 「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」の検討と自転車交通安全教育の主導的な役割発揮

4. 環境・エネルギーの施策についての要望

- (1) 県民の命と暮らしを育む森林を守るための林業の活性化。「なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議」の推奨による奈良県材の活用に向けた積極的な取り組み
- (2) 再生可能エネルギーの普及と促進に向けた小中規模のバイオマス発電の支援

おじゃましました

～奈良県立大学生協の巻～

奈良県立大学生協は設立して今年度25周年。12月16日から19日までの4日間、生協学生委員の皆さんが企画を考えて生協を盛り上げているとお聞きし、最終日の19日のお昼休みに奈良県立大学生協の食堂におじゃましました。「ありがとう」が伝わる温かい企画でした。

25周年WEEKのスケジュール

- 12月16日 2525抽選会(1回目)
- 12月17日 社会に目を向けようDAY!! (平和・防災)
- 12月18日 ビンゴ大会
- 12月19日 2525抽選会(2回目)



取材に応じて下さった
学生委員長の下山祐希さん(左)と
県立大生協理事 石間奈穂子さん(右)

奈良県立大学生協の 下山学生委員長にお聞きしました。

Q いつから25周年企画を準備されたのですか？

A 総会で決まり、9月の1泊2日の夏合宿で、学生委員みんなでアイデアを出し合いました。その後、委員長・副委員長・3名の部門長(新学期、学生生活、店舗)と会計の6名で具体化を進め、週1回の学生部会でも話し合いました。大きなパーティをしたい、地域商店街と連携したいというアイデアもありましたが、生協食堂ですることや日を分けて実行することになりました。抽選会、社会的課題を考えること、盛り上がるゲームを実施することに決まりました。

Q 「25周年ありがとうメッセージ」がクリスマスツリーに貼ってありますが。

A 話し合ううちに、「だれにありがとうだろう?」ということになりました。組合員はもちろん、職員さんや先生方はずっと生協を見守ってくださっていることに気づき、メッセージを集めようということになりました。最後の懇親会で職員さんにお渡しします。

Q 今後のことを教えてください。

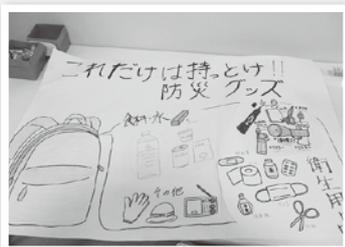
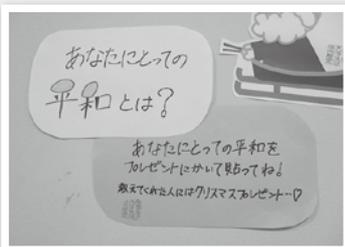
A 新入生が入ってくる準備をします。今までのように温かい雰囲気を作っていきたいと思います。



「2525抽選会」には長蛇の列
250円以上のレシートで1回抽選
なんと! 1等東京ディズニーランドペア券



2回の抽選会に取り組んだ中尾溪悟さん
2回で307名の方が抽選に参加



「社会に目を向けようDAY!!」
テーマは「あなたにとって平和とは?」と「防災」のための備え



食堂の机の「ありがとうメッセージ」を
呼びかける掲示

関西電力・大阪ガスとの懇談会

11月12日に関西電力との定例の電力事業経営問題懇談会、11月14日に大阪ガスとの定期懇談会に奈良県生協連は消費者として出席しました。毎年、全大阪消費者団体連絡会が事務局として、関西の消費者団体と企業との懇談の場を設けています。

関西電力とは、金品受領問題のお詫びと第三者委員会について報告がありました。**スマートメーター**の導入による個人情報の取り扱い、再生可能エネルギーの種類や内訳、**送配電部門の法的分離**について意見交換を行ないました。

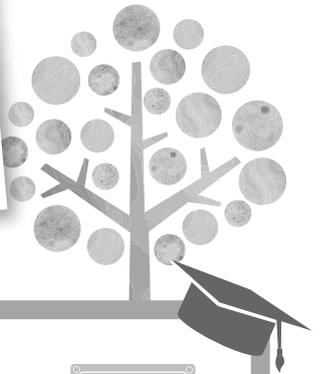
大阪ガスとは、**FIT期間**を過ぎた再生可能エネルギー電力の買い取り対応、再生可能エネルギーの種類と開発の考え方、非化石電源比率の対応など再生可能エネルギーの普及と温暖化防止対策の取り組みについて意見交換を行ないました。



大阪ガスとの懇談会



関西電力との懇談会



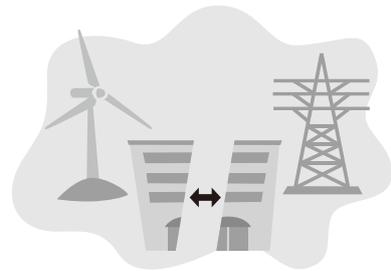
※スマートメーター

顧客の電気使用量を30分ごとに計測・記録でき、通信機能を持つ新しいメーターのこと。スマートメーターの導入により、社会全体の省エネ化への寄与や料金メニュー変更への柔軟な対応、検針業務の効率化等を可能としています。



※送配電部門の法的分離とは? (電気事業連合会HP引用)

2015(平成27)年6月に、電力システム改革の第3弾として、電気事業法が改正され、2020(令和2)年4月より、送配電部門の中立性を一層確保する観点から、法的分離による発送電分離が行われます。これに伴い、一般送配電事業者・送電事業者が、小売電気事業や発電事業を行うことが禁止されます(兼業規制による法的分離)。また、適正な競争関係を確保するため、一般送配電事業者・送電事業者と、そのグループの発電事業者や小売電気事業者に対し、取締役の兼職禁止等の行為規制も課されます。さらに、小売料金規制の経過措置について、対象事業者を指定する制度とし、適正な競争関係が確保されている供給区域では、経過措置の解除が可能となります。



※FIT(固定価格買取制度)

太陽光発電など再生可能エネルギーで作られた電力を、電力会社が一定価格で10kw未満が10年間、10kw以上は20年間の買取期間で買い取ることを国が約束する制度です。固定価格買取制度は、エネルギー自給率の向上や温暖化対策の問題を解決に近づけるため、再生可能エネルギーの普及を目的として始まりました。10kw未満の一般家庭の太陽光発電による余剰電力を高い値段で買いとることで、太陽光発電システムの普及を推し進めようとした。2009年に始まったFITによる10年間の買取期間が、2019年以降に順次終了していきます。太陽光発電導入時に契約した固定価格買取制度は10年の期限付きです。11年目以降は制度の適用外となり、電力の買い取りは電力会社の自主性にゆだねられます。

プラスチックごみ問題への対応は?

第16回(2019年度)大阪地区消費者対話集会

10月29日、東レ(株)滋賀事業所(滋賀県大津市)にて、2019年度大阪地区消費者対話集会が開催されました。日本化学工業協会(以下、日化協)主催で、日化学協加盟企業と消費者団体と対話することを目的に毎年秋に開催され、今回は「海洋プラスチックごみ問題」がテーマでした。消費者側から10名(全大阪消費者団体連絡会、奈良県生協連、コンシューマーズ京都、コープきんき事業連合)企業側は、加盟企業8名(花王、信越化学、住友化学、日化協事務局)が参加しました。

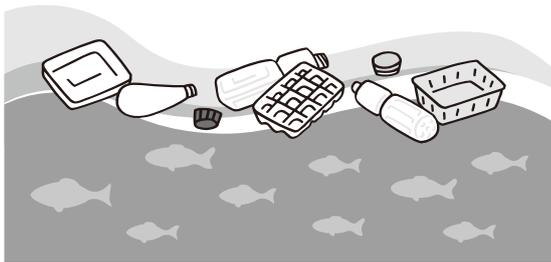
東レ(株)滋賀事業所の会社及び事業場の概要説明があり、記念館とイノベーションプラザを見学しました。その後、海洋プラスチックごみ問題への日化協の対応と、花王を例とした企業におけるプラスチック容器の取り組みの報告後、意見交換をしました。



会場の様子(東レ滋賀事業場会議室)

海洋プラスチックごみ問題の現状

国内外の陸上から海洋に流失したプラスチックごみにより2050年までに海洋中に存在するプラスチックごみの量が魚の重量を超すと予想されています。2010年の流出量推計のランキングは①中国 ②インドネシア ③フィリピン ④ベトナム ⑤スリランカ。アメリカが20位、日本は30位



◆コンシューマーズ京都からは、この秋に主に京都府下の2000人の各家庭で排出される1週間分のプラスチックごみの種類を調べた「容器包装プラスチック調べ」の報告がありました。排出量が多いのは600ml以下のペットボトル、加工食品の容器包装。調査を通じて、紙容器の飲料を購入するようになった、水筒やマイバッグを持参するようになったなど変化が出たとのことでした。消費者教育が進み、多くの企業が持続可能な社会のための商品づくりを企業戦略として取り組んでほしいとの意見が出されました。

◆国内では?◆

- 2018年 6月 第4次循環型社会形成推進基本計画策定
「プラスチック資源循環型戦略」策定することが決定
- 2018年 6月 「海岸漂着物処理推進法」改正(議員立法)
- 2018年10月 プラスチック・スマートキャンペーン
- 2019年 1月 プラスチック・スマートフォーラム発足
- 2019年 5月 海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針(閣議決定)
- 2019年 5月 「プラスチック資源循環戦略」策定
「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」策定

◆企業の取り組み

「海洋プラスチック問題」に関する様々な協議会が発足し、日化協でも「海洋プラスチック問題対応協議会(JaIME)」が2019年9月に設立され、国内動向の対応やアジアへの働きかけ、プラスチックのリサイクルに関する手法ごと(原料として再生、化学原料に再生、固形燃料として焼却してエネルギーを回収)の評価など科学的知見の蓄積に取り組んでいる。

●Japan Clean Ocean Material Alliance(*CLOMA)海洋プラスチックごみ問題解決に向けた組織(270社)が設立され、企業間連携で新たなプラスチック削減の解決策を求めて取り組んでいる。

*CLOMAのKey Action

- ①プラスチック使用量削減 ②マテリアルリサイクル率の向上 ③ケミカルリサイクル技術の開発・社会実装 ④生分解プラスチックの開発・利用 ⑤紙・セルロース素材の開発・利用

奈良県医療福祉生協 みみなし診療所

第7回 いきいき健康まつり

10月27日奈良県医療福祉生協第7回いきいき健康まつりが開催されました。天候に恵まれすごしやすい一日となりました。

西側駐車場では組合員や支援団体の模擬店、生協ホールでは医療福祉生協「健康チェック」、橿原市スポーツ推進委員「体力測定」、労災生協「レザークラフトワークショップとお菓子づくり」、協同福祉会の「くらしの介護相談」などが行われ、奈良県生協連も「いつでも健康チャレンジ」ブースを出展しました。今年は若い親子連れが多く、大人64名・子ども24名の参加がありました。参加者に健康チャレンジ宣言していただいた後、健康チャレンジシートと参加賞の歯ブラシをお渡ししました。

食品ロス削減推進フォーラムへの参加

奈良県主催で10月30日に社会福祉総合センターにおいて約60人の参加で開催されました。消費者庁消費者教育推進課塩月良二政策企画専門官による「食品ロスの現状について」基調講演がありました。

取り組み報告として、①生駒市地域活力創生部環境モデル都市推進課大窪奈都子課長補佐による「食品ロス削減に向けた生駒市の取り組み」、②フードバンク奈良平川理恵副代表による「フードバンク奈良～もったいないをありがとうに～」、③ならコープ組織部土井明部長による「SDGsの達成に向けて生協ができること 誰一人取り残さない～NO one will be left behind」の3事例が報告されました。



特定非営利活動法人なら消費者ねっと 会員・役員研修 「公正競争規約を学ぶ」学習会



2019年12月3日、特定非営利活動法人なら消費者ねっと会員・役員研修が開催されました。講師に一般社団法人全国公正取引協議会連合会の会長代行糸田省吾氏と事務局次長小出明夫氏をおまねきました。「公正競争規約を学ぶ」学習会になら消費者ねっとの会員と役員、行政関係者などが参加しました。全国公正取引協議会は公正競争規約を運営する全国の公正取引協議会を束ねる組織で、今回は事業者団体による景品表示法を遵守する取り組み内容について詳しくお話しいただきました。

公正競争規約は景品や表示等に関する事業者間の申し合わせで、消費者庁長官と公正取引委員会の認定を受けて設定されます。現在77品目の規約がありますが、これにより消費者は表示を信頼でき、事業者も消費者の信頼を得ることができ公正な競争の確保に役立っています。糸田氏はできるだけ多くの業界に公正競争規約を作ってもらいたいので、消費者からも働きかけそしてほしいと呼びかけられました。講演の後の質疑では、公正競争規約の具体的な策定方法や各公正取引協議会の状況などについて活発な意見交換がかわされました。

3.11を忘れない

被災地のいま

みやぎ生協・コープふくしまから
宮城・福島のいまをお伝えします。

—まち・住まい・コミュニティー—

復活した閑上の魅力を発信していきたい

宮城県名取市／かわまちてらす閑上

名取市内でも津波被害の大きかった閑上(ゆりあげ)地区に、2019年4月、観光と交流の商業施設「かわまちてらす閑上」(以下、かわまちてらす)がオープンしました。名取川の堤防沿いにレストランやカフェ、海産物店などが建ち並び、食はもちろん散歩やツーリングなどアクティビティも楽しめる人気スポットとなっています。

また周辺では宅地開発が進み、地元の人たちの新たな交流拠点としても注目されています。

(株)かわまちてらす閑上の菊地祥弘さんは、「名取川堤防沿いのエリアは元々商店街があったところ。地元の人たちにとっては昔から身近な場所だった」と言います。

震災で大きく傷ついた閑上ですが、地元の商業者たちは「閑上にもう一度かつての賑わいを取り戻したい」と立ち上がり、名取川の景観を活かしてかわまちてらすをつくりました。

かわまちてらすをきっかけにまちづくりが前進すれば、定住者の増加につながるの期待もあります。

「ここは閑上の復活の象徴。地域の期待の大きさをひしひしと感じている」と菊地さん。この夏、広場をステージにして開催したカラオケ大会には大勢の地元住民が参加し、その場で次の開催を待つ声があるほど盛り上がったそうです。

オープンから約6ヶ月。かわまちてらすは平日にも関わらず、食事や買い物を楽しんだり、堤防沿いを散歩したりする大勢の人で賑わっています。「土日の来客はさらに多い。芋煮やイルミネーション、お花見など様々なイベントを実施し、賑わいを継続していきたい」。

かわまちてらすはロケーションの良さでも人を惹きつけています。「この風景、素晴らしいでしょ」と菊地さんの指さす方を見れば、海と空に向かってゆったりと流れる名取川が目に入ります。風景を楽しみながら食事や買い物ができ、仙台の都心部からも近く気軽に足を運ぶことができます。

「震災を乗り越えて復活した閑上を見にきてほしい。そのためにこれからも閑上の魅力をかわまちてらすから発信していきたい」。

歩みは始まったばかり。閑上の賑わいがずっと続くよう、菊地さんたちは様々なもてなしのアイデアを練り出しながら、お客さまを迎えています。



かわまちてらす閑上。閑上の海と松からイメージしたダークグリーンの建物に地元や市外・県外から出店した26のテナントが入っています。



(株)かわまちてらす閑上の菊地祥弘さん。「来客数の増加をかわまちてらす各テナントの経営安定につなげていくことが今後の課題」と話します。

10月

- 3日(木) 近畿地方LPガス懇談会
- 6日(日) 平和ライブラリー開設記念講演(濱住日本被団協事務局次長)
- 9日(水) 第1回奈良防災プラットフォーム連絡会(災害対応マニュアル策定ワーキング)
- 10日(木) 関西広域連合訓練(図上訓練)
- 11日(金) 近畿地区生協府県連協議会
- 22日(火) ピースアクションをすすめる会
- 27日(日) 医療福祉生協いきいき健康まつり

11月

- 5日(火) 第2回奈良防災プラットフォーム連絡会
- 7日(木) 第2回生協・行政協議会
- 7日(木) 第4回奈良県生協連理事会
- 12日(火) 関西消費者団体連絡懇談会(関西電力)
- 14日(木) 関西消費者団体連絡懇談会(大阪ガス)
- 28日(木) 日本生協連関西地連運営委員会・県連活動推進会議
- 30日(土) ピースアクションinなら2019(中村桂子准教授)

12月

- 1日(日) 大学生協京滋・奈良エリアフェスティバル
- 3日(火) なら消費者ねっと研修会「公正競争規約と景品表示法など」
- 12日(木) 第3回奈良防災プラットフォーム連絡会
- 18日(水) 近畿農政局との意見交換会(事前協議)
- 18日(水) 大学生協とならコープの懇談会(共済連主催)
- 25日(水) ピースアクションをすすめる会

公告

第30回奈良県生協大会

食品ロスをへらすために私たちができること!

開催日時：2020年2月8日(土) 14:00~16:40

開催場所：奈良ロイヤルホテル 2階 鳳凰の間

〒530-8001奈良県法華町254-1

講演：食品ロスをへらすために私たちができること!

講師：井出 留美氏(食品ロス問題ジャーナリスト)

申し込み：奈良県生協連 0742-34-3535



編集後記

事務所のパソコンの老朽化とウィンドウズ10への入れ替えを同時にしましたが、過去のソフトからバージョンアップや更新に苦労しています。ネットでマニュアル検索、サポートデスクへ問い合わせして悪戦苦闘しています。ネット用語がわからず自分の言いたいことが伝わらず、サポートの説明も理解しづらくてパソコンアレルギーになりそうです。AI化が進む中で、この面でもっと優しい(わかりやすい)時代になってほしいものです。

データの断捨離もこの機会に事務局長と整理し、この記事が読まれる頃には落ち着いていることでしょう。

(弘)

「ONE TEAM」「令」は、昨年を表す言葉と文字。「桜」は18位だとか、「見たくも聞きたくもない」人がいるとか…。また、米Ting誌が選ぶ「今年の顔」は「グレタ」さん…一方で大臣の演説が「化石賞」だったとか。はたして、今年はどうなる年になり、何が選ばれるのかな。昨年は、「タビる」「びえん」も流行語だったらしい。

(和)

奈良県立大生協の25周年企画取材で「あなたにとって平和とは」というコーナーがありました。「好きなだけ寝られるとき」「温かいものを食べて温まっている時」とありました。今年は災害のない平和な世界でありますように。

(順)

新年が始まりました。忙しかった昨年のようにならないように、今年も心穏やかに暮らしていければいいなと思っています。何か新しいことでも始めて見ようかな?

(佳)